

「桜を見る会」 何のためか…

安倍晋三首相主催で13日に開かれた「桜を見る会」が物議を醸している。この会は、各界で功績や功労があった人たちをねぎらおうと、歴代首相も手掛けてきたが、今年は安倍首相の「お友だち」の姿が目立った。さらに、開催に数千万円の税金が投じられるのに、招待者の氏名すら公表されないのだ。「何のための会なのか」と疑問の声が上がる。(榊原崇仁)

与党の推薦者多く ◆ 経費は税金 近年増加

東京・新宿御苑で十三日に開かれた会には、人気子役の寺田心君や歌舞伎俳優の市川猿之助さんら、各界からの招待者やその家族の一万八千人が訪れた。最初に「桜を見る会」が開かれたのは、吉田茂首相だった一九五二年。以後、例年四月半ばに新宿御苑が開かれ、今回は六十四回目となる。首相の直頭あるいはつと乾杯以外、式次第はなく、来場者は桜を見ながら懇談を楽しむのが通例だ。

二〇一一年の東日本大震災などで開催が自粛された後、二三年に安倍首相が再開。北朝鮮のミサイル発射や学校法人「森友学園」問題の渦中で批判を浴びながらも開催してきた。昨今は政策宣伝の趣も強くなり、この日もあいさつで「十月からは幼児教育・保育の無償化が始まる。児童虐待撲滅の法案を成立させる」とアピールを忘れなかった。どんな人が招待されるのか。内閣府によると、関係省庁が各界各層から推薦する以外に、与党の推薦者もあり、人数は与党絡みの方が多いという。

今年の招待客が目立ったのは、何の「功労」だろうか、作家の百田尚樹氏や竹田恒泰氏、

ネットウヨのアイドル？ いっぱい



「桜を見る会」で招待客と記念撮影をする安倍首相(中央)。左右に百田尚樹、ケント・ギルバート、上念司の各氏らネットウヨ層から強い支持を受ける面々が居並び、東京・新宿御苑で

タレントのケント・ギルバート氏ら、排外主義的な思想を掲げるネット右翼(ネットウヨ)から人気を集める「右派文化人」。安倍首相と記念撮影した様子を、うれしげにツイッターに投稿していた。

一方、ツイッターに「なぜ俺のところには招待状が届かないのだろう」と投稿したのは、シヤーナリストの津田大介氏。近年の活躍から、呼ばれてもよきそつだ。「こちら特報部」が津田氏に真意を尋ねると、「完全に皮肉ですよ」と笑う。「招待状は政府系の仕事をやっている人に来ると思っている。あの場面にこの出ていって記念撮影するのは、安倍首相をすごく支持しているみたいで、かなりつらそう」。安倍政権に批判的な意見の人には、声が掛かりにくいかもしれない。

では、この会の開催費用はどこから支出されているのか。内閣府によると、今年の費用は

「五千万円程度」で、「一般会計に盛り込まれているという。つまり税金だ。問題はその額で、一三年は約三千五百万円だったもので、およそ千五百万円増えている。内訳を調べると、会場設営や警備の費用のほか、茶菓子や梅酒、焼き鳥といったもてなし用の飲食代が増加している。

内閣府官房総務課の江上博文氏は「会場設営の支出はゼロ対策の意識が強まった結果。飲食代に関しては招待客に同行する家族が増えているため」と説明するのだが…。

専修大の岡田憲治教授(政治学)は「近年の会を見て、公費の使い方が妥当なのかと疑問を抱かざるを得ない」と言をかしげる。

招待客の氏名は、功労者ではなく、個人の情報に当たるとして公表されず、実際に来ているのは「首相の私設応援団のよう」だからだ。「何のための会か、曖昧になっている。与党の推薦による出席者も多いとなると、政治色の強いパーティーにも思えてしまう。安倍政権は『支持率が高ければ何をやっても構わない』と振る舞って来た。この会にも、そんなお節回りが見え隠れする」